

ツーリズム、環境問題とインフラ整備

経営学部 岡本 久之

キーワード ツーリズム、汚染排出枠、要素報酬、交易条件、インフラ整備**研究概要**

ツーリズム産業は急成長を遂げている産業で、世界観光機関(WTTC)の推計によると海外訪問客は12億人、観光収入は1.5兆ドルで世界貿易額の7%(サービス貿易では30%)に相当する。国際的な観光、特にインバウンド観光は、経済学的には「外国人による自国の非貿易財の消費」として特徴づけられる。すなわち、本来非貿易財であるものが、外国人観光客の需要により輸出財に転換することになると同時に、この輸出財は非貿易財であるため、仮に自国が小国であっても、ツーリズム・ブームなどで国際交易条件が変化することになる、という興味深い特徴を持つ。こうした国際貿易モデルは、最近盛んに研究されるようになって来た。私の現在の研究はこれに関連しては二つある。その一つは、ツーリズム産業は観光客の空間的・地理的な移動を伴うため汚染排出枠規制の影響を受けやすいと考えられるが、排出規制の強化によりどのような影響を受け、その結果として要素報酬(特に熟練労働と未熟練労働の賃金格差)にどう影響するのかという問題である。またもう一つは、ツーリズム産業の振興のためのインフラ整備の影響の研究で、民間の力でインフラ整備をするのがいいのか、政府が関与して整備する方がいいのかに関する研究である。

アピールポイント

上記のテーマに関連しては、ピア・レビュー誌『国際経済』第69号に共著論文の掲載が決まっている。また、ツーリズムと環境汚染問題に関しては、日本国際経済学会中部支部冬季大会(2017年12月)で招待講演を行った。なお、国際貿易や開発経済に関する研究は、代表的国際誌RIE誌やJIE誌それにThe International Economy誌などにこれまで公表してきた。

応用分野

- ・ツーリズム・ブームの研究
- ・汚染排出枠規制の経済的影響の分析
- ・インフラ整備の分析